

# 「九条の会さかど」ニュース 2019年1月24日 第105号

http://www.9jo.jp/sakado sakado@9jo.jp 連絡先 282-4968 (FAX 兼用) 小林

## 朝ドラに見る戦争

—早春のつどいで話題提供—

西坂戸 大山 茂

NHKテレビの平日毎朝8時から15分間の「朝の連続ドラマ」は、視聴率が常時20%前後となる人気番組です。日本の朝の生活の定番になっているほどです。当然、幅広い人たちが見えています。通常の日勤生活者にとっては見るのが困難な時間帯だからではありませんが、出発点はもちろん専業主婦が対象だったと思います。

当初の大当たりは『おしん』だったと記憶していますが、ビデオへの録画が普及し始めたということもあり、日勤生活の人も含めて、驚異的な話題と高い視聴率となりました。朝ドラの主人公を演じた女性タレントは、そのこと自体で有名人となりました。

見ている人たちの政治についての関心度もピンからキリまであるのですが、戦争の悲惨さや、戦中戦後の国民生活について取り扱っている作品がたくさんあります。

女性の喜怒哀楽に触れていく以上、日本の女性や子どもたちにとって戦争の影響は、膨大なものがあつたでしょう。そこで、もがきながら這い上がっていくように生活再建を果たしてきた人たちも大勢いたと思います。

1999年の『すずらん』から、現在放映中の『まんぷく』に至るまでの9作品について、家族の戦死、空襲被害、戦災孤児、戦後の生活再建などがドラマの中でどのように展開してきているかを分析してみたいと思います。

そして朝ドラに親しんでいる幅広い人たちとも対話するなかで、「戦争を二度と起こさない。憲法9条は守らなければいけない…」との世論形成につながっていければ幸いです。

## 勤労働員で飛行機を

泉町 田中一枝

1928年(昭和3年)9月25日生まれですので、今年で90歳になりました。1935年(昭和10年)、文京区汐見小学校に入学。1940年(昭和15年)、東洋女子高等学校入学。2学年までは授業を受けましたが、3年以降、飛行機を作っていた萱場製作所に動員されました。

40歳から50歳前後の工員さんの指導を受けて板金工になりました。毎日ジュラルミンの板金を型紙通りに切り、重石を乗せて脚カバーの枠を作っていました。

脚カバーにボール盤で穴を開け、皿取りという作業をしてから2枚重ねビス打ちに移りました。ビスが板より凸凹すると飛行機が飛行中の振動で歪み空中分解してしまうので、ビス打ちが平らにできるようになるまで時間をかけて何度も何度も練習しました。このビス打ちに長いこと時間をかけたおかげで、ハンマーを使うのだけは上手になりました。

工場に動員されてからの朝夕のご挨拶は、言葉だけでなく右手で敬礼をする次第だったので、学生時代の生活様式は男子と同じになりました。

1945年(昭和20年)に空襲が激しくなつてからは、防空壕に入ったり出たりでした。爆弾が落とされたらそれでお終いですから、布団の中で眠るのはまるで考えられない生活になりました。住んでいた千駄木の家が焼夷弾で丸焼けになり、これではとても東京では生活できないと、いとこの疎開していた川越に移りました。

その後、坂戸に空き家を見つけ、それからずっと踏切脇の今の家に70年、東上線の踏切番をしています。

戦争中の日常生活は、空襲と食うや食わずの毎日で、一日も早く平和が来て欲しいと願っていたものです。新しい憲法になり、これでも戦争は起こらないとホッとしました。(田中一枝さんは、語り継ぐ会の終了後、九条の会さかどの呼びかけ人として入会しました)

## 九条の会さかど 早春のつどい

日 時 2月10日(日曜日)11時から14時  
会 場 坂戸駅前集会施設(2階)  
話題提供 朝ドラに見る戦争(大山 茂)  
参加費 1,500円(食事と飲み物)

**一緒に食べて、一緒に飲んで、一緒に語りあって!**

9条のこと、平和のこと、伝えたいこと、やりたいこと、一人ひとりの思いに耳を傾けましょう。食事と飲み物の用意をします。ご参加を2月7日(木曜日)までにご連絡ください(049-282-4968 小林)

## 参加することの新しい意義

元町 新井竹子

九条の会さかど「戦争を語り継ぐ会」の今回の語り部は、田中一枝さんだった。なんとお年は90歳。すつと歩いて前に立たれた。張りの有る声、テキパキとした物言い、瞳を真っ直ぐ私たちに向けて語られる。

女学生時代のこと。勉強はしないで萱場製作所でジュラルミンの板切り。ビス打ち。おかげでハンマー使いがうまくなったと笑って話す。そして、「戦争は嫌ですわね」を繰り返した。

この会に参加の人たちは、さすがにもう戦争体験者は少ないが、若い者も少ない。こういう話は若い者にこそ伝えるべきだという人が多いが、なかなかそうもいかない。ならば戦争を語り継ぐ活動というのは、どうあるべきなのだろうか。

普通に考えるならば、語り継ぐのだから、語る人よりも若い人が聞き手であるべきなのだろう。ところがそういうことはなかなかできない。そんな中でも語り継ぐ会に参加し続けた私は、今回新しい意義を見つけた。

それは、「語る人に出会う」という、ただそれだけでいいのではないかということである。どんな人であれ、生きてきたことに意義があるのである。今回の田中一枝さんは、「私は125歳まで生きることにしています」と、元気よく語られた。これがいかに私を元気づけたことだろうか。それは、本当だとは思えない。しかし、それでいいのだ。嘘を嘘として楽しめることのありがたさ。それは子どもがサンタクロースを楽しむのと似ている。サンタクロースという、嘘を楽しめた子こそ、豊かな子どもになれるのである。

集会を企画するという事は、それなりの苦労がある。それがわかれば、努力して参加しようとするのが、豊かな人間である。集会というのは、参加することによって意義が出てくるのである。

「継続は力なり」という言葉があるが、「集会に参加し続けることで力がつく」のである。九条の会さかどが企画する会に参加し続ければ、力がついて長生きできますよ。それは嘘。しかし、嘘を嘘として楽しめる豊かな人間になりませんか。

### 戦跡めぐりの感想から(1)

◆ 陸軍の標石が壁から生えていて、残したい意思と撤去しない気持ちとの感じが面白いなと思った。

曲がった道や斜めの道が多い坂戸で、この千代田から若葉までの地域だけ平行な道が多いのはどうしてだろうと思っていた、長年の謎がやっと解けた。

坂中の校章は、天皇家の紋章である菊ではなく野菊。校歌の三番にも野菊が歌われているのは、滑走路跡の荒れ地に野菊が咲いていたことからだと教えられていた。坂中の先輩である大山さんにこの話をしたら、卒業するまで校章も校歌も無かったそうで知らなかった！ でも、そういう思いが育ってきた坂中の歴史もまた良いなと思った。

今回の資料として配られた「坂戸飛行場の概要」の「地方特有の気象」を見ると、空っ風が強いのは昔から変わらないんだなあとと思った。

変わっていくもの、変わらないもの、人々が集まって街を造り、歴史を紡いでいく。坂戸って、不思議な街ですね。(キリカ)

◆ 本日は貴重な戦跡を案内していただき、ありがとうございました。坂戸に住んで20数年ですが、飛行場があったとは…。

数少なくなっている戦跡が大切に残されていないことに、市の姿勢に疑問が残りました。何故歴史を残そうとしないのでしょうか。

また今回のように戦跡めぐりがありましたら、参加したいと思います。(安部)

### 【入会しました】

#### 命は平等、人権も平等

中富町 安澤美佳

坂戸生まれの坂戸育ち、安澤美佳(はるか)です。4人の子育てをするなかで自分自身が痛切に必要性を感じた子育て支援のひとつとして、末広町で24時間緊急一時保育施設「さかどキッズステーション」を運営しています。

前回の県議選に出馬した際に九条の会さかどから送っていただいた「9条アンケート」に回答するには憲法9条を知らないかと…と、恥ずかしながら初めて9条の全文をインターネットで読み、9条の意義を調べる機会を得ることができました。本当にありがとうございました。

9条は、このままでいいと思います。戦争はいかなる場合もしてはならないと思うからです。防衛力の強化が軍事費の増加に繋がり、戦争を再び起こすのではないかと不安に思わせる今日に至ったのではないかと考えています。

自衛隊員を、戦争の兵士にはいけない。私はもし息子たちが自衛隊員になりたいと言ったら、災害救助活動など人命救済のために働くのは許しますが、他国へ行き人を殺すことは絶対に嫌です。戦地に行きどちらかの国の応援をするようなことは、絶対に許せません。

世界中の人の命の重さは平等、人権も平等です。誤った考えのもとに人が人を支配しようと戦争を起こすのだから、考えを改めるまで対話による解決を求めなくてはなりません。

九条の会さかどは政党に関係なく、戦争に反対する人々が立ち上がり戦争放棄を呼びかけている平和への活動団体と認識しています。「戦争を語り継ぐ会」にも何度か参加させていただきました。9条を知って4年足らずの私ではありますが、今後ともよろしくお願い致します。

### 今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

2月28日、3月28日、4月25日(第4木曜日10時~12時)  
会場は坂戸市役所に隣接した勤労女性センター談話室